

国際比較からみる 若者のアイデンティティと 社会参加



[第1部] 発表1

若者の「趣味(Hobby)」に対する認識の日独比較

歌川光一 Koichi Utagawa

聖路加国際大学大学院 看護学研究科 准教授



[第1部] 発表2

「障害のある性的少数者」の若者がいかに社会運動に参加しているか — 日本とドイツにおけるLGBT運動の比較から

欧陽珊珊 Shanshan Ouyang

立命館大学大学院 先端総合学術研究科
一貫制博士課程 5年生



[第1部] 発表3

青少年の自発的な防災活動への参加 — 日本とドイツの比較分析

マルテ・シェーネフェルト
Malte Schönefeld

ヴンバータル大学 公共安全・危機管理研究所
嘱託研究員兼博士課程



[第2部] 発表4

ヴィーガン — 我々はできます! ドイツと日本の若者の ヴィーガンライフスタイルの選択

アンナ・シュラーデ Anna Schrade

元関西学院大学 准教授



[第2部] 発表5

日本とドイツにおける ログ文化の現在

山口遥子 Yoko Yamaguchi

独立行政法人日本学術振興会 特別研究員 (PD)
早稲田大学・成城大学 非常勤講師

2024

3/13

(水)

シンポジウム 16:00~18:45 [受付開始15:30]
交流会 18:50~20:00

※シンポジウム終了後に会場で交流会を行います。軽食をご用意しておりますので、お気軽にご参加下さい。シンポジウムのみの参加も可能です。

ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

オンライン講演 (ZOOM) 同時開催

※要事前申込 / 参加費無料 (会場での参加は先着 30名)

お申し込み方法 山岡記念財団ホームページより
お申し込みください。 ↓ ↑

<https://yamaoka-memorial.or.jp/event/2024/0313-01.html>

申し込み締切 2024 3/12 (火) 12:00迄



主催 一般財団法人 山岡記念財団 〒530-0013 大阪市北区茶屋町 1-32 YANMAR FLYING-Y BUILDING

Tel: 06-7636-0219 Fax: 06-7636-0212
E-mail: yamaoka-memorial@yanmar.com

共催



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

後援



ドイツと日本
Zukunft gestalten
ともに未来へ

ドイツ連邦共和国総領事館



ゲーテ・インスティトゥート大阪・京都

一般社団法人 大阪日独協会



京都大学学術研究開発センター(KURA)



京都大学大学院 人間・環境学研究科 学術越境センター

発表者



歌川 光一 Koichi Utagawa
●聖路加国際大学大学院 看護学研究所 准教授

専門は教育文化史、生涯学習論。教員養成に携わりながら、「趣味(Hobby)」「たしなみ」「シリアスレジャー」等をキーワードに、教育学と余暇社会学を架橋する研究に取り組んでいる。

若者の「趣味(Hobby)」に対する認識の日独比較

本研究は、「趣味(Hobby)」に対する認識(内容、取り組み方)等について、日独の若者に注目して明らかにする。余技としての「趣味(Hobby)」は、一見汎用性の高い概念だが、家庭生活を生産的なものにするという意味においては、限定されたニュアンスを持っている。余暇を含むライフスタイル、DIY運動の受容等が異なる両国における「趣味(Hobby)」観やその今後について検討する。



欧陽 珊珊 Shanshan Ouyang
●立命館大学大学院 先端総合学術研究所
一貫制博士課程 5回生

博士課程では、障害のある性的少数者(LGBT people with disabilities)の生き方、コミュニティの形成、社会運動の参加について調査を行なっている。障害とセクシュアリティの交差に焦点を当てて研究をしている。

「障害のある性的少数者」の若者がいかに社会運動に参加しているか —日本とドイツにおけるLGBT運動の比較から

本研究は、身体障害や精神障害を抱え、かつLGBTを自認する日独の若者たちが、どのようにLGBT運動に参加しているのかを明らかにすることを目的としている。調査では、ドイツと日本のプライドパレードやLGBTに関連したイベントを比較し、運動に参加する複合的なマイノリティである若者の語りと活動から、異なる経験の共有の方法、運動への参加動機、および障壁などテーマについて考察する。



マルテ・シェーネフェルト
Malte Schönefeld
●ワッパータール大学 公共安全・危機管理研究所
嘱託研究員兼博士課程

元国連職員としての人道支援の経験を踏まえ、災害研究者の立場から、各種市民防衛と危機管理の研究プロジェクト(2015年のドイツ難民危機、イベントセーフティ:テロ組織から誘引になりやすい各種フェスティバルにおけるセキュリティに関する研究プロジェクト、コロナ禍における防災市民保護組織の連携に関するプロジェクトなど)の複数担当経験あり。現在は、Wuppertal大学公共安全・危機管理研究所に所属し活動する災害研究のエキスパート。

青少年の自発的な防災活動への参加 —日本とドイツの比較分析

近年、気候変動の影響から被害が甚大化しており、多種多様なニーズのボランティアが力を発揮する。その反面、ドイツと日本の両国では、一番の働き手であるはずの従属的に防災活動する若者の数が減少するなどの社会的な影響が発生している。以上の背景を踏まえ、本研究では、ドイツと日本の若手の消防団員、赤十字社のボランティア員、ライフセーバー等からのインタビューを通して、災害支援に従事する若者のモチベーションは何か、どのような方法をすれば若者がより興味をもち、参加してくれるのかをドイツと日本の比較研究をすることで明らかにする。



アンナ・シュラーデ
Anna Schrade
●元関西学院大学 准教授

オックスフォード大学で日本研究の修士号と歴史学の博士号を取得。2013年から2023年まで神戸大学および関西学院大学で准教授を務めた。主な研究テーマはEUと日本の比較政治。

ヴィーガン —我々はできます! ドイツと日本の若者のヴィーガンライフスタイルの選択

ヴィーガン(完全菜食主義者)のライフスタイルは、日本やドイツを含め、世界中で広がりを見せている。ドイツの若者の間では、約10%が完全な植物性食生活を実践しているが、日本ではもっと少ない。ヴィーガンライフスタイルの普及に影響を与える要因としては、ヴィーガンフード、レストラン、文化的開放性、ロールモデル、植物性食生活の利点に関する社会的理解などが挙げられる。ドイツではヴィーガンの歴史が長く、(動物愛護や環境問題への関心の高さなどを通じて)深く根付いているのに対し、日本は徐々に追いつきつつあり、大きく成長する可能性を秘めている。



山口 遥子 Yoko Yamaguchi
●独立行政法人日本学術振興会 特別研究員(PD)
早稲田大学・成城大学 非常勤講師

専門はドイツ及び日本における人形劇およびオブジェクトシアター史。舞台芸術に限らず、反権威主義的な芸術の可能性に広く関心をもって研究を行っている。

日本とドイツにおけるリソグラフ文化の現在

リソグラフ(Risograph/別名「ガリ版」という日本発祥の孔版印刷機器が、近年ヨーロッパ各地の若者たちによって、エコで民主的なメディアとして「再発見」され、世界中で一つのムーブメントになりつつある。彼らは自分で機械を改造し、独自のテクニークを生み出している。本研究は、世界に広がるこのリソグラフ・カルチャーの日本とドイツにおける現状を捉え、この手法がいままさに開拓しつつある新たな芸術表現の射程を明らかにする。

特別協力



田野 大輔 Daisuke Tano
甲南大学文学部 教授
山岡記念財団 諮問委員



吉田 純 Jun Yoshida
京都大学大学院 人間環境学研究所 教授
山岡記念財団 諮問委員



ビョーン=オーレ・カム
Björn-Ole Kamm
京都大学大学院 文学研究科 講師

【会場】 ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町19-3

【アクセス】

■JR京都駅より〜 (所要時間 約30分)

■バス停「四条河原町」より〜 (所要時間 約15分)

■京阪電車〜

市バス4、17、205番「荒神口」下車、徒歩5分

京都バス17番「荒神橋」下車、徒歩2分

市バス3、17、205番「荒神口」下車、徒歩5分

京都バス16、17番「荒神橋」下車、徒歩2分

「神宮丸太町」下車(5番出口)、北に徒歩6分

「出町柳」下車(2番出口)、南に徒歩8分

